

令和4年度 学校経営報告書(自己評価)

学校番号	31	学校名	静岡県立清水東高等学校	校長名	寺島 明彦
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果(○)と課題(●)
ア	いじめの根絶	・いじめアンケートを実施した。(2回目は2月に予定) ・スマートフォン講座を実施した。 ・「誰に対しても相手の気持ちを大切に接している」と答えた生徒の割合：96.2%	A	○いじめに関するトラブル0件 ○ネットに関するトラブル0件 ●授業や学校アンケートなどで、スマートフォンや1人1台端末の使用機会が増えている中、今のところ不適切な状況はないが、今後も引き続き生徒の様子を観察し使用方法について検討していく。
	授業中、部活動中、登下校中(特に自転車)の事故防止	・授業中の事故0件 ・登下校時の自転車事故件数2割減 ・職員対象のAED講習会の実施 ・校内活動中に熱中症重症者を出さない。 ・保健だよりの毎月発行	A	○校内の環境整備（ICT機器を含む）について安全と使いやすさに配慮して整備することができた。 ○自転車交通事故は昨年度よりも4割ほど減った。 ●交通事故件数減を目指すだけでなく、交通ルールの順守とマナーに対して徹底させる。 ●授業中の事故0件を目指す。
	防災対策の充実	・一斉メールによる防災連絡（緊急連絡）訓練の実施 ・防災訓練を年2回実施	B	○コロナの影響で一斉メールを十分に活用することができた。 ●コロナが落ち着いたら防災関係で生かすための訓練などを行ってみたい。
	新校舎建設に伴う学校施設の安全確保	・「ごみの分別・削減・環境を守る行動をしている」と答える生徒の割合：85%	A	○環境に配慮した行動がとれている。 ●美化委員会による校内美化のための点検や呼びかけを継続して実施していく。
	感染症の予防	・「毎日の健康観察や手洗い・手指消毒・換気を行っている」と答える生徒の割合：85%	A	○感染症対策を自ら行う意識を高めることができた。 ○換気を徹底させることができた。
イ	BYODによるICTを活用した授業の実践	・1・2年生のICT機器活用を目指す。 ICT機器（タブレット等の個人端末）を授業や学習で有効活用できていると回答した生徒の割合が95.2%であった。	A	○1年生普通科の探究活動ではロイノートなどで生徒のBYOD機器の活用を促すことができた。
	HP、広報活動による本校にふさわしい優秀な生徒募集の実現	・探究活動を中心に教務部記事を月1回のペースで掲載する。 普通科1年の探究活動の記事が月1回のペースで掲載できなかった。	B	○学校webページの記事掲載はこまめにアップされていた。過去の記事の整理も進んだ。 ●普通科探究活動の記事掲載をより充実させたい。
ウ	主体的、対話的で深い学び、アクティブラーニングの推進	・授業において、アクティブ・ラーニングに取り組んでいると答えた教員が80.4%であった。 ・年間2回以上、校内外の他の教員の授業を見学したと答えた教員は70.2%であった。年間2回の授業交流、8月と2月の校内研修会を実施した。校内研修に積極的に取り組んだ教員は約98%に達した。 ・生徒による授業評価を6月、11月に実施した。生徒のアンケート結果や保護者の意見を授業改善に反映させた教員は87%に達した。	B	○従来のアクティブラーニングの導入に加え、コロナ禍におけるICT機器を利用した学習活動の充実が進んだ。 ●教員の授業見学が促進されるべきだが、時間外勤務の縮減ができたことと答える教員が3割に満たないことから余裕のなさが伺える。 ○アンケートはグループフォームを使い、負担の少ない形で実施できた。 ●授業交流の意義を改めて発信するとともに、参観の時間を取りやすい時期などを検討したい。
	4校合同研修会の実施	・参加教員による研修内容を各教科・分掌で共有する。 ・本年度は静岡高校が会場校のため直接参加した教員数は限られていたが、研修会が有意義であったとの評価は83%であった。	B	○他校における探究活動やアクティブラーニングの取り組みを知り、本校での活動に生かすことができた。 ●次年度も他校が会場校となるため、情報共有や活用の方法について検討していきたい。
	探究活動の研究	・年間の指導計画と評価法を完成させ、2年次の指導計画を立てる。 ・1年次の指導計画は実施を経て、詳細に練ることができた。2年次の計画も完成した。	A	○指導計画の立案から実施・反省を担当教員の打合せを行いながらシステムチックに進めることができた。
エ	SSH新制度の研究	・新制度指定を受けた先進校への視察 ・収集した情報を反映したプログラムの完成 ・先導的改革的指定校の教育課程を参考に、教育課程の研究を行う。 ・特色の異なる複数の先進校を視察し、情報収集と共有が十分に行われた。 ・SSHの取組、ICTの活用事例等を本校の実情に合わせて取り入れた。 ・教育課程の変更を2回実施し、移行期間における本校のカリキュラムを練り上げた。	A	○SSH先進校視察を行い、校内で情報共有することができた。 ○教育課程の編成にあたり、SSHの特例についても可能な範囲で対応することができた。 ●令和6年度の認定に向けた方針の決定が次年度の課題となる。
	SSH活動の充実	・「課題研究を中心としたSSH活動は有意義である」と答える生徒の割合：80% ・不思議実験講座受講後、「理科がより好きになった」中学生の回答：3.5点（4点中） ・国立遺伝学研究所訪問（実施できない場合は代替行事）は有意義だった」と答える生徒の割合：80% ・1年生の探究活動の充実を図るべく、取組内容を大幅にリニューアルした。 ・SSH生徒研究発表会（全国大会）審査委員長賞、SSH東海フェスタ発表奨励賞など、多くのコンテストに積極的に参加し、成果をあげた。 ・「SSH活動は有意義である」と回答した生徒の割合：86.0% ・不思議実験講座を2回実施した。「理科がより好きになった」中学生の回答：3.89（4点中） ・国立遺伝学研究所訪問は、新型コロナ感染要対応で、オンライン研修として実施した。有意義だったと回答する生徒の割合：79%	A	○新課程における課題研究プログラムにつながる取組を充実させることができた。 ○SSH生徒研究発表会で目標としていた全国入賞を果たした。 ○「SSH活動」「不思議実験講座」において、年度当初の数値目標を達成することができた。 ●「遺伝研訪問」において、年度当初の数値目標を達成できなかった。代替企画（オンライン講座）となった場合でも充実させる工夫をしていきたい。
オ	欠席、遅刻、早退の減少	・欠席数が過年度平均の8割以下となることを目指す ・「一年を通して、睡眠時間を平均6時間以上確保できた」と答える生徒の割合：70% ・令和4年度は例年より欠席と出席停止の数が増加した。 ・健康観察票兼学習記録表を活用し、家庭学習時間と睡眠時間の確認を毎日行うことができた。 ・1年生の睡眠時間調査では、65%が6時間以上の睡眠時間を確保できた。	B	●新型コロナの影響から学級閉鎖も起きたため、欠席と出席停止の数が増加した。 ○各教科の学習課題を整理して、過度な負担とならないように学年で、課題量のコントロールをしている。
	メンタル問題による不登校、転退学の減少	・「学校生活に満足している」と答える生徒の割合：80% ・グループエンカウンターを実施した。 ・「学校生活に満足している」と答えた生徒の割合：89.1%	A	○グループエンカウンターの実施により、コロナ禍において人間関係を構築するための貴重な機会を与えることができた。
	部活動の充実、成績の向上	・全国大会5部活、県大会10部活出場 ・「部活動が充実している」と答える生徒の割合：75% ・全国大会出場5部活（新聞・自然科学部化学班・放送・パソコン・写真）、東海大会出場4部活（囲碁・陸上・水泳・ヨット）その他県大会以上多数。 ・「部活動が充実している」と答えた生徒の割合：92.9%	A	○限られた制約の中で充実した活動ができた。 ○全国大会、東海大会等に出場する活躍をした部活動が多数あった。 ●文武両道をめざす本校生徒の努力の結果として運動部の全国大会出場が期待される。

	探究活動の研究	・文理選択やキャリア教育へと繋がる指導計画と評価法の立案を目指す。	・1年生のプログラムを大幅に刷新し、文理選択やキャリア教育、2年時での課題研究へと繋がる学びが充実した。 ・「このプログラムで学びや成長を実感したか」の生徒回答は5点中4.2であった。	A	○時間や教員などのリソースを効果的に使うことができた。 ○生徒のキャリア意識や、探究的思考方に向上がみられた。 ●来年度以降の継続的な実施に向け、環境を整える。
	基礎学力の定着（校内学力試験の活用）	・令和4年度の評価結果について分析をする。 ・テスト返却1週間後の個票返却 ・「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合：85% ・「指導のレベルに満足している」と答える生徒の割合：90%	・新しい観点別学習評価の実施は大きな混乱なく導入できた。過年度との評定分布比較も各学期で実施した。 ・89.1%の生徒が「授業の内容がよくわかる」と答えている。「指導のレベルに満足している」と答えた生徒も91.4%であった。 ・テスト返却後1週間後の個票返却については、全学年100%達成できた。	A	○毎学期の評定分布は例年と比較して同程度の分布になった。 ○授業の分かりやすさやレベルについて満足度が高かった。 ○進路部担当者が年間を通して個票返却を一括で担当したため、定期考査、校内模試いずれも処理が早かった。
	読解力をつける	・「年間5冊以上の読書を行う」と答える1・2年生の割合：70% ・「生徒の読解力が伸びた」と答える教員の割合：70%	・授業交流や研究授業の見学、協議会を実施し、各教科での授業改善を図った。 ・「年間5冊以上の読書を行う」と答えた生徒の割合：64.4%。1年生に限ると73.1%であった。 ・「生徒の読解力が伸びた」と答えた教員の割合：78.7% ・朝読書の時間に副担任が巡回指導した。 ・小論文指導は全教員で分担し、指導を徹底できた。	B	○研究授業ではICT機器の使用やアクティブラーニングを実施し、各教科で授業改善の方法を共有することができた。 ○校内研修や各種授業実践、生徒による授業評価の実施により、授業改善の推進が図られている。 ○朝読書の効果的な取組に関してはおおむね達成できた。 ●読書感想文及び、新書レポート執筆について、さらに指導を徹底したい。
カ	個に合った適切な進路指導、進路面談の充実	・進路に関する保護者会を実施。目標参加率：80% ・オープンキャンパスへの2年次までの参加：90% ・「進路実現に向けての1年間の自身の取組に満足している」と答える生徒の割合：70% ・「新旧担任連絡会や校内進路検討会が進路指導に役立った」と答える教員の割合：80% ・「進路講演会が生徒や保護者の進路理解に役立った」と答える教員の割合：80% ・「プロフェッショナルと語る会は有意義だった」と答える生徒の割合：80% ・「将来の進路について考えている」と答える生徒の割合：80% ・「東大訪問（実施できない場合は代替行事）は意義があった」と答える生徒の割合：75%	・「プロフェッショナルと語る会」「特別講演会」「少人数実験講座」等、進路を意識した事業を実施した。 ・1年SSHの授業の中で、進路選択を意識した活動を取り入れた。 ・「プロフェッショナルと語る会は有意義だった」と回答した生徒の割合：100% ・1年部の指導もあり、希望通りの文理選択を実施することができた。 ・進路に関する保護者会を実施。目標参加率：80%については、1年89.1%、2年70%、3年90%という結果だった。 ・OCへの2年次までの参加：90%については、1年、2年共にコロナ禍であったため、OCに参加制限を課す大学が多かった。そのため、夏休みの課題は、「大学調べ」に切り替えて、オンラインのOCへの参加やHP調べを実施した。この課題の提出率は、1・2年共に100%であった。（1年でのOC参加率は85%） ・「進路実現に向けての1年間の自身の取組に満足している」と答える生徒の割合については、50.8%であった。 ・「新旧担任連絡会や校内進路検討会が進路指導に役立った」と答える教員の割合は、83.7%であり、達成できた。 ・「進路講演会が生徒や保護者の進路理解に役立った」と答える教員の割合は、100.0%であり、達成できた。 ・静岡県立大学薬学部訪問、東京大学訪問を3年ぶりに実施することができた。国立遺伝学研究所訪問は、代替事業としてオンライン講義を実施した。 ・「進路実現に向けての1年間の自身の取組に満足している」と答える生徒の割合は、3年生は75.2%であった。	A	○「プロフェッショナルと語る会」は前年度より1講座増やし11講座で実施することで、より生徒の進路意識・職業観を高めることができた。 ○1年生SSHで進路選択を題材とした内容を取り入れ、より進路意識を高めることができた。 ○生徒の希望通りの文理選択が実施できた。 ○探究の時間（SSH）でキャリア教育を充実させ、進路について考える材料を今まで以上に提供できた。 ○おおむね目標が達成できた。 ●進路に関する2年保護者会が70%で目標に届かなかった。7月の猛暑の時期でもあったため、環境整備を考慮しつつ、より参加意識が高まるような企画を検討したい。 ●「進路実現に向けての1年間の自身の取組に満足している」と答える生徒の割合の目標70%については、50.8%であり、生徒自身が今の自分の努力に満足していないことの表れであるため、意欲の高さが今後良いと思われるが、もっと自信をもって生活できるように、声掛けを行う必要がある。 ○コロナ禍の中でも、オンライン等で可能な限り実施した。 ○研究内容を詳しく学び、研究環境に触れたり実験などを体験したりすることによって、希望する進路への意識を高めることができた。 ○OOBの東大生と、大学生活や受験など様々なことについて対面で語ることができ、大変刺激を受けることができた。 ●理化学研究所、国立遺伝学研究所の訪問を実施できるように、準備を進める。 ●受験生として、「進路実現に向けての1年間の自身の取組に満足している」と答える生徒の割合は、90%以上を求めたい。
	個の実力にあった文理選択（1年生）	・「学校で発行された『進路ノート』、『進学資料』、『合格体験記アプローチ』、『最新大学情報』は進路を考えるうえで参考になった」と答える生徒の割合：75% ・「本意な選択となる生徒を出さない指導を行う。」	・4月初より文理の希望調査を複数回行い、それを踏まえて担任が生徒・保護者と面談を行った。 ・文理選択の希望数は大きな調整もなくバランスよく分かれることができた。 ・夏休みにオープンキャンパス（含オンライン）に参加した生徒の割合は、83.9%であった。 ・1年生に対し、定期的な希望調査を4月から3回以上実施できた。 ・「学校で発行された『進路ノート』、『進学資料』、『合格体験記』、『最新大学情報』は進路を考えるうえで参考になった」と答える生徒の割合は81.9%であった。 ・担任と生徒・保護者の面談機会1回以上（生徒との二者面談、保護者との三者面談、保護者クラス会）については、1年5回、2年5回、3年6回で達成できた。	A	○仮登録で入力したものに間違いがないか確認する形で本登録を行ったため、入力ミスなどがなかった。 ○夏休みにオープンキャンパスに参加できない生徒に対し、代替課題として夢ナビの講義動画を視聴させた。 ●理系希望者の中には理数科目で不安な生徒がいる。 ○おおむね目標が達成できた。今後も生徒の進路実現が叶うように、支援を充実させていけるように努力したい。
キ	あいさつの励行	・「近所の人や知り合いにあいさつしている」と答える生徒の割合：90%	・「近所の人や知り合いにあいさつしている」と答えた生徒の割合は、87.4%であった。 ・あいさつ運動を各学期1回以上実施した。 ・ほとんどの生徒が気持ちよくあいさつすることができていた。	B	○あいさつすることは定着してきた。 ●もう少し気持ちよく元気があるあいさつをして欲しい。
	生徒会活動、ボランティア活動の充実	・「学校祭に満足した」と答える生徒の割合：80% ・各部活動で1回以上ボランティア活動を実施した割合：80%	・「学校祭に満足した」と答えた生徒の割合は、92.6%であった。 ・コロナの影響もあったが、14部活がボランティア活動を実施した。実施した割合は、42%であった。	B	○9月末の台風15号による被害において、多くの生徒が自主的な災害復旧活動を行った。 ●学校行事の企画運営については、コロナの影響を引き続き考え、周到な準備が必要である。
	研究旅行の充実	・「充実した研究旅行になった」と答える生徒の割合：80%	・京阪神に多く集まる文化財に触れることができた。京都の伝統文化や、宝塚の芸能も経験できた（普通科）。 ・九州の郷土文化や種子島宇宙センターの科学技術について経験できた（理数科）。 ・生徒の研修満足度は理数科100%（非常に満足87%、満足13%）、普通科は約98.2%だった。	A	○国際交流については当日だけでなく、事前に班別にリモート交流を実施した。 ●生徒が主体的に研修先を調べて計画していたが、他の行事等もあり忙しく、十分な時間が確保できたかどうか不明である。 ○科学技術施設の訪問、自然体験、平和学習、文化体験など、充実した研修を実施することができた。
ク	休暇取得促進日の設定	・休暇取得促進日に休暇を取得できる職員の割合が90%以上	・85.1%の職員が取得できた。コロナ禍の中、夏休み中の補講計画の変更を余儀なくされた中で取得できない状況があった。	B	○多くの職員が休暇を取る意識は持つことができています。 ●より休暇を取得しやすい日程を確保する必要がある。
	業務の見直し、スクラップの推進	・印刷紙の使用量1割減を目指す。 ・19:30以降残留する職員が減少するように業務の割り振りを改善する。	・97.1%の職員が自らの仕事に対するタイムマネジメントの重要性を意識している。 ・校務整理・削減や業務改善を提案した職員は、67.4%に留まった。 ・時間外勤務が昨年度より縮減できたと感じる職員は、29.8%であった。	B	○職員の意識改革は進んでいる。 ○ICTによる業務改善は進んでいる。業務時間の減少への効果については不明瞭ではあるが、職員の意識では、業務の負担感の軽減は実感できている。 ●コロナ対応、新課程対応、補講、個別指導など生徒に関わるごとの業務のスクラップが難しい。
ケ	事務室運営の効率化	・各事務職員が1件以上の業務改善を提案	・業務改善は進まなかった。	C	●特別教室棟新築に伴う業務が予想以上に大きく、業務改善を検討する余裕がなかった。
	法令順守の徹底	・現金の適正な管理のために支払い、決算報告等はわかりやすい文書の作成に努め残金の迅速な返金処理等を行う。 ・個人情報の適正な保管により紛失及び漏洩事故ゼロ	・学校徴収金等の事務処理は、退学生徒への返金及び通知を含め、適正に実施できた。 ・現金管理及び支払管理も適正に実施できている。 ・マイナンバー等の個人情報管理も適正に管理できている。	A	○県が定めた「学校徴収金等事務処理基準」に基づいた処理ができています。 ●年度末決算処理はこれから行うので、適正な処理とわかりやすい文書を作成する。
	安全安心な教育環境の維持	・月2回以上の施設点検と法令点検指摘箇所のすみやかな改修 ・的確な移転計画資料を作成する。 ・計画的な備品等の購入	・定期点検や法令点検での指摘箇所は、安全性を考慮した優先順位により改修を進めた。 ・特別教室棟の移転については、3月が引越であるので準備を進めているところである。 ・上記にかかる購入物品についても整備を進める。	B	○新校舎の4月開始が滞りなく、使用開始が出来るよう準備している。 ●来年度は、旧校舎（特別教室棟）解体工事があるので、今後はその調整が必要となる。